

2020年8月9日(日)
聖霊降臨後第10主日 銀座教会 主日家庭礼拝

礼拝招詞 「眠りについている者、起きよ。死者の中から立ち上がれ。

そうすれば、キリストはあなたを照らされる。」 エフェソ5:14

主の祈り

使徒信条 我は天地の造り主、全能の父なる神を信ず。我はその独り子、我らの主、
イエス・キリストを信ず。主は聖霊によりてやどり、
処女(おとめ)マリヤより生れ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、
十字架につけられ、死にて葬られ、陰府にくだり、
三日目に死人のうちよりよみがえり、天に昇り、
全能の父なる神の右に座したまえり、かしこより来たりて、
生ける者と死ねる者とを審きたまわん。
我は聖霊を信ず、聖なる公同の教会、聖徒の交わり、罪の赦し、
身体のよみがえり、永遠の生命を信ず。 アーメン。

讚美歌 213 みどりのまきばに

聖書 使徒言行録20章25～38節

20:25 そして今、あなたがたが皆もう二度とわたしの顔を見ることがないとわたしには分かっています。わたしは、あなたがたの間を巡回して御国を宣べ伝えたのです。 20:26 だから、特に今日はっきり言います。だれの血についても、わたしには責任がありません。 20:27 わたしは、神の御計画をすべて、ひるむことなくあなたがたに伝えたからです。 20:28 どうか、あなたがた自身と群れ全体とに気を配ってください。聖霊は、神が御子の血によって御自分のものとなさった神の教会の世話をさせるために、あなたがたをこの群れの監督者に任命なさったのです。 20:29 わたしが去った後に、残忍な狼どもがあなたがたのところへ入り込んで来て群れを荒らすことが、わたしには分かっています。 20:30 また、あなたがた自身の中からも、邪説を唱えて弟子たちを従わせようとする者が現れます。 20:31 だから、わたしが三年間、あなたがた一人一人に夜も昼も涙を流して教えてきたことを思い起こして、目を覚ましていなさい。 20:32 そして今、神とその恵みの言葉とにあなたがたをゆだねます。この言葉は、あなたがたを造り上げ、聖なる者とされたすべての人々と共に恵みを受け継がせることができるのです。 20:33 わたしは、他人の金銀や衣服をむさぼったことはありません。 20:34 ご存じのとおり、わたしはこの手で、わたし自身の生活のためにも、共にいた人々のためにも働いたのです。 20:35 あなたがたもこのように働いて弱い者を助けるように、また、主イエス御自身が『受けるよりは与える方が幸いである』と言われた言葉を思い出すようにと、わたしはいつも身をもって示してきました。」 20:36 このように話してから、パウロは皆と一緒にひざまずいて祈った。 20:37 人々は皆激しく泣き、パウロの首を抱いて接吻した。 20:38 特に、自分の顔をもう二度と見ることはあるまいとパウロが言ったので、非常に悲しんだ。人々はパウロを船まで見送りに行った。

牧会祈祷 天の父なる神さま、聖霊降臨後、第10主日の朝、主日家庭礼拝をお捧げできる幸いを感謝いたします。神様はその独り子をたもうほどに世を愛してくださいました。あなたの愛と言葉に立ち返り続け、生かされて行くことができますように。主に希望を抱いて歩んで行くことができますように。今、病の中にいる方、試練の中にいる方を特に省みてお支えください。医療従事者、政策立案者の上に、神様の恵みのお支えと知恵が与えられますように。夏の暑い日々が続きますが、どうか愛する兄弟姉妹の健康と信仰とをお守りください。家庭礼拝と教会でお捧げする礼拝とを一つのものとして祝福してください。この週、あなたの光の子として歩めますようお導きください。この祈り、主イエス・キリストの御名を通してお祈りいたします。アーメン

説教 「神とその言葉に委ねられ」 藤田 由香里 伝道師

パウロはここまで、第一次、第二次、第三次宣教旅行をしまいいりました。神の国の福音を方々で宣べ伝え、多くの教会を建てて励ましてきました。本日の箇所は、第三次宣教旅行の終局部に当たります。エフェソからマケドニア州とギリシャを回り、再びアジア州に戻り、ミレトスに到着します。パウロは一路、エルサレムに急いでおりました。どうしても五旬祭までにエルサレムに行きたかった（20：16）と記されます。五旬祭、つまり弟子たちに聖霊が降ったペンテコステの時までに、パウロはかの地に戻りたかったのです。初代教会でも、すでに毎年祝祭日を祝う習慣があったのでしょうか。自分でエフェソに立ち寄る時間はないけれど、エフェソの長老たちを呼べば来てくれるということをパウロは知っていたのでしょうか。パウロとエフェソの教会の長老たちの信頼関係が伝わります。またエフェソは1世紀前後のキリスト教宣教の中心地域として栄えましたから、伝道の重要拠点として、認識されていたことと思います。本日は、パウロが呼び寄せたエフェソの長老たちに語った告別説教の箇所から御言葉をお聞きしたいと思います。

この説教で、これからパウロはエルサレムの苦難へと向かうことを告げます。聖霊がパウロに告げていたのです。そこで、自らのことを振り返ります。パウロは、自らの十字架を背負い、「自らの決められた道を」、まっすぐに駆けてきました。「**前のものに全身を向けつつ、神がキリスト・イエスによって上へ召して、お与えになる賞を得るために、目標を目指してひたすら走**」（フィリピ3:13～14）ってきたのです。

パウロは、エフェソの長老たちにいくつかの励ましの言葉を残していきました。

パウロは、聖霊は、「**神の教会（20：28）**」の世話をさせるために長老たちを群の監督者に任命したと言います。「**世話をする**」は、羊飼いの言葉です。餌をやる、牧するということです。

長老たちは、群の監督を任されています。監督は、「エписコポス」というギリシャ語です。英国国教会の教派を「エписコパルチャーチ」と言いますね。エписコポスは、管理者、監督です。テモテの手紙に、監督はどのような人かが記されます。「**だから、監督は、非のうちどころがなく、一人の妻の夫であり、節制し、分別があり、礼儀正しく、客を親切にもてなし、よく教えることができなければなりません。（1テモテ3：2）**」

パウロは、説教で教会を「羊の群れ」にたとえます。ヨハネによる福音書で、主イエスは、「私は良き羊飼い」と言われました。良い羊飼いは、羊のために命を捨てます。良い羊飼いは、囲いの中にいる羊を導き、また囲いの外にいる羊も導きます。羊は繊細な生き物ですが、羊には自分の羊

飼いの声がわかるのです。監督者たちは、群れを養うことを託されました。「群れと自分自身とに気を配りなさい（20：28）」長老もまた一匹の羊です。群れ全体とともに、自分自身にもよく気を配らなければなりません。

パウロは、パウロが去った後に、残忍な狼が群れを荒らすことを警告します。マタイ福音書によれば狼は「偽預言者」であり、ヨハネ福音書によれば、「羊を奪い、追い散らすもの」です。しかし、パウロはこの脅威にも「恐れることはない」と告げています。むしろ、対抗する術があることを伝えます。

「そして今、神とその恵みの言葉とにあなた方をゆだねます」（20：32）

羊の群れを守るために、パウロは、「神」と「神の恵みの言葉」にあなた方をゆだねると言います。本日の箇所には、何度もパウロや教会の歩みが「神のもの」であることが語られます。パウロが語ったのは、「神の恵みの福音（20：24）」であり、「神のご計画（20：27）」であり、エフェソの長老たちは「神の教会（20：28）」の世話をするのです。福音は神のもの、ご計画は神のもの、教会は神のものであるのです。私たち銀座教会の歩みも、神様のものです。私たち羊の歩みも、神様のご計画の中に置かれているものです。私たちを守っているものは「神」様であり、「神の恵みの言葉」にその深き神様のご意図が現れています。エフェソの長老たちは、巡回伝道者であるパウロとは物理的距離がありました。そして今、パウロが告別説教をしていることで大きな距離の隔たりをかつてないほどに経験することがわかりました。しかしながら、その距離は課題ではない、問題ではないのです。パウロはすでに神の福音を伝えたからです。「役に立つこと」は一つ残らず彼らに伝えているのです。それは、神様に立ち返っていくことであり、信仰に生きることです。私たち自身も新型コロナウイルスの対策で、一進一退の「物理的距離」を取らねばならない状況を経験しています。命を守るための最善を選択し続けるためです。けれども、教会は神の教会であり、私たちは神のものであり、私たちはすでに私たちに語られている神の恵みの言葉にゆだねられています。私たちが受けて来た神の言葉に守られているのです。この言葉は、私たちを「造り上げ」ます。狼は荒らすために来ますが、神の恵みの言葉は、私たちを「造り上げ」るものです。この言葉は、私たちをすべての聖なるものたちとともに「恵みの相続者」としてくださいます。

「委ねる」は任せる、です。パウロは教会から次の場所へ行くときに、「信じる主に彼らを任せた」というふうに言われます。神の教会は、主にゆだねられています。

この教会がどんな教会か、というとパウロは、「神が御子の血によってご自分のものとなさった神の教会」（20：28）と言います。エフェソの信徒への手紙で、夫と妻についての教えのところで、主イエスと教会の婚姻関係のイメージが用いられます。

さて、191番の賛美歌の英語の歌詞の一番はこのイメージを歌っています。直訳すると次のようです。

「教会の一つの基礎はイエス・キリスト、彼女（教会）の主
彼女は水と言葉による彼（キリスト）の新たな創造
彼は天から来て、彼の聖なる花嫁とするため彼女を探した
彼自身の血で彼は彼女を贖い、そして彼女の命のために彼は死んだ」

教会は、神の教会です。神様ご自身がご自分のものとして聖なるものとしてくださっている群です。どのような教会であるかといえば、すでに、花婿キリストが、花嫁教会をご自分の血による贖いでご自分のものとしてくださっているのです。教会は神のもの、キリストのもの、だから私たちもキリストのものであるのです。私たちのために命を惜しまず捨ててくださった主がおられます。この方が復活によって、すでにあらゆる罪に勝利してくださっています。私たちがどこにいても、今物理的に散らされてしまっているとしても、私たちは神の恵みの言葉に委ねられています。この恵みの言葉には、私たちを救い、守る力があります。主の言葉にゆだねられている私たちは一つの「神の教会」です。

今日の告別説教で、パウロは「涙ながら」に主にお仕えしたと二回も語ります。しかし、恵みの言葉は告げているように、「涙とともに種を蒔く人は 喜びの歌とともに刈り入れる（詩編126：5）」のです。「受けるより与える方が幸いである」このように主イエスの言葉をパウロは引用しました。神の教会で私たちが受ける恵みは命に溢れています。法外な恵みをいただいているのですが、「与える」こと、「蒔く」ことの方がより幸いであるのです。

この「与えること」は、誰よりも主イエス・キリストがまずそのお姿で示してくださったものです。ご自分の命を惜しまず教会に与えられたキリスト。恵みの相続者である私たちもまた「与える方が幸いである」のです。受けたものを、今自分がなしようところで、「与える」幸いに生きて参りましょう。

祈り 御在天の父なる神様、神の教会の嗣業の民としてくださった恵みに感謝いたします。私たちは、愛するあなたと、あなたの恵みの言葉にゆだねられています。私たちのうちに蒔かれた御言葉の数々を聖霊によって守り育ててください。私たちをあなたの恵みの言葉で作りに上げてください。あなたから受けた恵みを蒔くものとしてください。小さな行い、小さな祈り、そのようなところから、あなたを深く知る道へと私たちを導き続けてください。社会的距離の制限の中に置かれていますが、その中にもあなたが神のご計画によって福音を広めてくださることを思います。私たちを神の国の建設のためお用いください。この祈りを主イエス・キリストの御名によってお捧げします。主イエス・キリストの御名によって祈ります。 アーメン

祈 禱（各自、自由にお祈りください）

祈禱課題 暑さとウイルス対策の夏、兄弟姉妹の健康と信仰が守られますように
神の言葉によって、キリストに向かって成長できますように
医療従事者・政策立案者を覚えて

讃美歌 354 飼い主 我が主よ

献 金

頌 栄

祝 禱 主があなたを祝福し、あなたを守られるように。

主が御顔を向けてあなたを照らし あなたに恵みを与えられるように。

主が御顔をあなたに向けて あなたに平安を賜るように。

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、

あなたがた一同と共にあるように。

アーメン